

ジモトの鉄道のはなし

(株)久慈設計
企画設計部次長
岩手代表役員兼事業計画委員
榊 智也



私は、岩手県に本社を構え地域に根ざした設計業務を行っている設計事務所に在籍しています。主に公共施設の企画提案・意匠設計・積算業務等を行っており今年で10年が経ちました。

最近では東京の業務にも力を入れている当社ですが、震災復興への思いは変わらず、微力ながらも復興と共に歩いていければと思っております。私共はこれまで東日本大震災で被災した沿岸地区の復興に携わってきました。岩手県の復興状況はというと、被災した3つの県立病院は全て再建され、先日最後の落成式が行われたとのニュースをテレビで見たところですし、公立学校の復旧状況も完了に向かっています。災害公営住宅の整備状況も概ね9割近くであり、復旧は確実に進んでいると言えると思います。

そんな中、私が現在県内の復興に興味があるのは、NHKの「あまちゃん」で有名になった、岩手の沿岸を走る第三セクター鉄道である三陸鉄道(通称：さんてつ)です。作品で登場したのは岩手沿岸北部である久慈市～宮古市の区間である「北リアス線」ですが、もうひとつの区間として沿岸南部である釜石市～盛駅の「南リアス線」があります(釜石市は2019年のラグビーワールドカップの開催地にもなっているので、たくさんの人に訪れてほしいなと思います)。

震災前は北の区間と南の区間に挟まれて山田線というJRの区間がありました。それがこの度再建するにあたり、三陸鉄道に運営を引き継ぎ、岩手県の沿岸を北端から南端まで「リアス線」として1本の路線に統一するということです。どうやら一本化することで国内最長の第三セクター鉄道になるそうです。岩手県は単純に面積が大きく、その沿岸を北から南まで一本の鉄道でつなぐ訳ですから相当な長さになるのです。

ただ、前向きな話ばかりではありません。鉄道が再建したからといってどの程度の人が利用するのかは未知数なのです。発災からこれまでに既に「列車離れ」が定着していないか?南北に同じように走る自動車道の利便性の高さが足かせにならないか?など懸念材料は様々です。だからこそ各地の駅舎整備ではそれぞれに特色を持たせる工夫がなされているところです。駅舎の愛称を募集したり、ツアーイベントを開催したり、各地のモチーフを駅舎デザインに反映させたり。私も実はその駅舎整備のひとつに携わっており、さんてつの列車が復興のシンボルとして街中や海沿いを走り抜ける様子を思い描き、期待に胸を膨らませているところです。

やはり「復興」というのは、建物や道路がただ元通りに再建されるだけでは不十分で、その中身である人々がいかに生き生きと暮らせるかにかかっていると思います。堅苦しい話に終始してしまいましたが、リアス線が全線開通した際には、全国から沢山の「鉄オタ」が集まるのをお待ちしております。きっとインスタ映えする駅舎も出来るはずですので。

